

有為会に集う多様な人材

有為会には、置賜3市5町の在住者と出身者を中心に、置賜と様々にご縁ある方々が、会の趣旨に賛同し、広く会員として集っています。置賜の多様な会員たちは、郷土愛を基盤に、率直な交流を現在も続けています。



第8代会長 宇佐美 洵 (1901-1983)

米沢出身の官僚・政治家であった宇佐美勝夫（有為会創立時から会員で、東京府知事・貴族院議員。後に第5代会長となった）の次男として、東京に生まれる。慶應塾大学卒業後、伯父池田成彬の勧めで三菱銀行へ。三菱銀行頭取、日本銀行総裁を歴任する。

親子で会長となった初例。激務の中を自ら東京興譲館寮に顔を出して、学生を激励するなど、学生たちから慕われた。東京・仙台の学生寮の新築移転を推進。



第11代会長 小幡 常夫 (1915-2011)

米沢出身。米沢興譲館中学から山形高等学校を経て、東北帝国大学法学部卒。東京ガスに入社。環境整備株式会社取締役等を歴任。仙台興譲館で寮生活を送り、寮出身者で初の会長となる。「無力無名の野人」と自称、黒子役を自認して戦後の有為会活動を推進、情熱を燃やして後輩の指導にあたった。

会員同士が率直に交流する伝統



東京支部の園遊会に臨席の上杉家
第16代隆憲ご夫妻



仙台支部の仙台興譲館寮の新入生歓迎会

平成29(2017)年4月



東京支部の予餞会で上杉邦憲名誉会長ご夫妻と
記念撮影する東京興譲館寮の卒業生

平成31(2019)年2月

そして、多くの会員の無私の熱意こそが有為会の発展を生みだす・・・

有為会には、130年の歩みで、これまで15代の会長が就任しています。各会長の牽引力と同時に、各時代に役員として、無私の奉仕精神で熱意をもって会務に当たった多くの先達の活躍と会員の多様な支援の積み重ねがあってこそ、今日までの発展があります。